

Japanese Course for Undergraduates  
(Hamamatsu Campus)(I Japanese Language  
Education)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00028602">https://doi.org/10.14945/00028602</a>

# 年次報告（令和2年度後期）

## I 日本語・日本事情

令和2年度後期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で10月受け入れの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生等の短期プログラムの受け入れが中止となったことによる開講科目の変更や、渡日遅れの学生に対するオンライン開講等、例年とは異なるイレギュラーな開講となった。

### 日本語研修コース（中級）

袴田 麻里

#### 1. コースの概要

平成14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、平成21年から主として研究生や大学院生が受講するコースに変更し後期にのみ開講している。29年度からは全学教育科目で日本語・日本文化研修科目「日本語中級I～X」として開講する。

本コースは、中級後半程度の日本語力を持つ学習者を上級へ引き上げることを目的とする。上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を目的に、表現したいことを適切に表現できるようになることを学習目標としている。令和2年度も、アジアブリッジプログラム学部留学生（以下ABP生）の初学期教育の一部としても活用した（p.28参照）。ABP生は、研修コースの日本語中級I～Xを履修し、初学期教育の基礎日本語I～Xとして読み替える（2015年度に規則整備）。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、渡日遅れとなった受講者が1名いたが、渡日し隔離期間をすぎるまでZoomを用いてリアルタイムで授業に出席した。

学部教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるよう、履修者の中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに、指導教員へ送付した。

#### 2. 授業期間

2020年10月1日～2021年2月10日

#### 3. 受講者

クラス	受講者数	国	所属・在籍身分	履修登録科目数
日本語中級 I～X	3	ベトナム	工学部、情報学部1年	10
	1	インドネシア	工学部1年	10

#### 4. 時間割

	月	火	水	木	金
5・6時限 12:45～14:15	プロジェクト ワーク	日本事情	社会	読解	プロジェクト ワーク
7・8時限 14:25～15:55	文法・表現	作文	文法・表現	文法・表現	作文

#### 5. 授業内容

##### 中級後半

目標：大学での勉学に必要な日本語能力（日本語能力試験N1以上）を身に付ける。

##### 文法・読解 3コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）、配布資料

目的：講義やレポート作成、学生生活で必要となる表現を学ぶ。

内容：速読や精読を通して、中上級レベルの文法、語彙、漢字を習得する。

##### 作文 2コマ/週

使用教材：自主製作教材、『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目的：中級レベルの文章表現を学び、レポート作成に必要な基本的スキルを習得する。

内容：所属する学部や静岡県に関する内容を扱った本学オリジナルの教材を使用しながら、話し言葉と書き言葉の違いや、引用の仕方、グラフの読み取りと説明の仕方などを学ぶ。

##### プロジェクトワーク 2コマ/週

使用教材：オリジナル教材

目的：プロジェクトワークを通して、口頭発表や意見交換ができるようになる。

内容：学生にとって身近な社会文化的なテーマを取り上げ、様々な課題に取り組む。教室内外の結びつきを重視したインタビュー調査や国際交流イベントの企画なども実施する。

##### 語彙 1コマ/週

使用教材：『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解 [上級]』（東京外国語大学留学生日本語教育センター編著）

目的：講義の受講に際し必要となる表現や語彙の使い方を理解する。

内容：文法・読解で導入された内容をさらに発展させた応用的な表現を学ぶ。

**日本事情** 1コマ／週

使用教材：『ライブ！現代社会2020』（帝国書院）、配布資料

目 的：少子高齢化、食糧問題等の様々なテーマを取り上げながら、日本の現代事情を理解することを目指す。

内 容：現代日本に関する読み物、ニュース、グラフの読み取り等を通して、日本事情を学ぶ。また、社会問題に対して考察し、意見交換や発表を行う。

**社 会** 1コマ／週

使用教材：『ライブ！現代社会2020』（帝国書院）、配布資料

目 的：公民分野、歴史分野、地理分野における基礎的な知識を習得することを目指す。

内 容：日本国憲法・基本的人権・社会保障の仕組み（公民）、日本の歴史の流れと歴史上の人物や文学・建築（歴史）、地図の読み方や観光地（地理）などについて学び、日本への興味を深める機会を多く設ける。定期的に試験を行い、知識の定着を図る。